

次年度に向けた改善方策

令和8年3月

(1) 学校の教育目標

人間尊重の精神に基づき、柔軟な考え方ができ、主体的に課題を解決し、相手を認め互いのよさを尊重し、心身ともに健康で、富士の学び舎代沢小学校を愛し、「自分で、進んで、負けないで」を実践できる児童の育成を目指し、次の教育目標を設定する。

○よく考える子 ○思いやりのある子 ○元気な子

(2) 学校の重点目標

「みんなの子どもをみんなで育てる みんなの学校をみんなで創る」を合言葉に学校・家庭・地域が一体となり、急激に変化する社会の中で、児童一人ひとりが社会の担い手として自ら課題に向き合い、判断し行動して、それぞれが思い描く未来の実現を図ろうとする児童の育成を目指す。

- ◎異学年交流や地域との交流などを通して「人と関わる力」等の非認知的能力を育むとともに、自分の目標や役割に向かって、自主的に活動できる児童を育てる「キャリア・未来デザイン教育」を推進する。
- ◎教員のICT機器の効果的な活用力を向上させ、学びのデータを基に、児童一人ひとりに応じた多様な学びの機会を提供することで「個別最適な学び」の充実を図る。また「せたがや探究的な学び」や体験的な活動を通じた「協働的な学び」も充実しながら、授業改善を推進する。
- ◎児童が多様な個性を認め尊重し合い、共に学び、共に育つ教育を推進する。学校・学年・学級に支持的風土を育み、児童に関わる全ての教職員の情報共有を基に個性や能力、発達特性等の多様性を理解し、多角的な児童理解に努め、いじめ・不登校・障害等の特別な配慮を必要とする児童への指導を充実する。
- ◎副校長補佐B（学校地域協働推進員）を中心に、地域の教育力を積極的に活用する。保護者や地域の人材、専門家等によるゲストティーチャーを授業に招聘して、出前授業を数多く取り入れ、地域とともに児童を育て、地域が参画する学校づくりを推進する。
- ◎学校全体で組織的なカリキュラムマネジメントを行い、高学年を中心とした教科担任制を実施し、「学校における働き方改革」を推進するとともに、児童にとって有益な教育活動を推進する。

(3) 次年度に向けた改善方策

- ①タブレットの活用について、基礎基本の定着を図るために、例えば、ロイロノートで作成したワークシートを「資料箱」等に保存しておき、質の高い学習方法を共有する。そのような教材があることを周知する。
 - ・児童がタブレットを使用して「書いてよかった」「伝えてよかったな」と感じられる場面をつくれるようにする。そのために、教師の価値づけや相互評価を積極的に取り入れ、達成感を味わえるようにする。
- ②特別支援教室などの特別支援対応について、情報共有の徹底を図る。
 - ・廊下歩行については、廊下歩行強化週間を設けるなど、具体的な手立てを講じ、全校全体で取り組む。
- ③児童への取組については、「この学習は自分の生き方や将来につながっているよ」と具体的な言葉で示す。また、キャリアパスポートの書式を工夫し、児童が目標を意識する機会を増やす。
 - ・保護者への取組については、保護者向けの年間指導計画にキャリア教育に関わる学習を明記し、年度始めの保護者会等で伝える。
- ④4月に保護者会で説明する資料において、「代沢小」としてのルールを明確化し、説明を徹底する。子どもと教員のゴールイメージを共有する。
 - ・C4+hの活用を広げ、タブレットの効率化を模索していく。
- ⑤「先生忙しそうだから…」といった教員への印象が、児童の相談しにくさにつながっていると考えられるた

め、「笑顔で」「ゆとりをもって」子どもに接するようにする。

・例えば、学び舎マスコットを活用した指導（あいさつ富士太郎など）を行うなど、教員が学び舎についての理解を深め、学び舎を意識した指導を行うようにする。

⑥さらに、保護者の目にする機会を増やすために、HPに頻繁に掲載したり、掲示板等に活動の様子を掲示したりする。

・今後も、休み時間に外で遊ぶことを奨励していく。